

# Akatake Times

Vol. 18  
(通算 第171号)

46期下期に入り、47期まであとわずかです。  
皆さんは、今期の自己目標に向かって着実に進んでいますか？  
ゴールデンウイークで養った英気で、達成させましょう！



## 『日の入り』



1月末に初めてハワイに行きました。  
出発前は、観光地で混雑しているようだし、期待していませんでしたが、気候はいいし景色はきれい、  
食べ物は美味しく、非常に快適で、大変気に入りました。  
観光で行ったので印象が良かった面はあるでしょうが、“ハマる”人が多いのも納得の場所でした。  
写真はワイキキビーチの夕日です。  
朝から海水浴客や日光浴客で混雑していますが、夕方は近隣ホテルの宿泊客やショッピング客も  
ビーチに来て、夕日を眺めていました。  
色々な言語が飛び交うなか、穏やかな風が吹いていました。

撮影日時：2017年1月28日      撮影と文：営業部 本社営業 赤堀さん



### ◆自然の中に身を置いてみよう

この記事を書いている今日は、5月1日。すがすがしい晴れの日となりました。早朝は肌寒いのですが、春の息吹がそれを許してしまいます。毎年必ずやってくる夏の厳しい暑さを思い出しつつ、心ゆたかに一日一日と春を過ごしたいものです。境野勝悟著『一休“禅”の言葉』の中に、「色相は そのときどきに 変わるとも 不生不滅の 心変わらじ」という一休和尚の言葉を紹介し、次のように解説しています。「世の中の様子とか、人の身分に関することは何のルールもなく、無造作にどんどん変わる。状況は、またたく間に変化するから、不安が募る。一方、春・夏・秋・冬のように大自然の変化の順序は絶対に変わらない。変化を安心して楽しめる」のだと。自分にとって不利益でいやな変化だけに心を奪われず、日差しや風、花や雲の風景のフレッシュな自然の変化に心を躍らせることだ、と云っています。その言やよし！ 毎日を忙しく送っている者には、思い切って自然の中に身を置いてみる時間が必要です。

### ◆「ワッサッ現象」

昨今のめまぐるしく変化する世情に私どもはどのように処していくのかという極めて重要な命題を今、与えられているように思います。政治・経済・社会・教育等々全般においてですが、基本的な価値観の構築をしっかりとっておく必要があります。大衆迎合のマスコミ報道の本質をどうみるか、例えば、あれだけマスコミが大騒ぎをした“森本学園騒動”ですが、すっかり過去のものとなってしまったかのようで、大山鳴動して鼠一匹の感があります。視聴者もそれに追従しがちであります。このような事態例は日常茶飯事であり、次から次へと湧き出てきます。ワッと騒いでサッと引く「ワッサッ現象」とでもいうのでしょうか。ワッサッ現象報道の今後の成り行きを継続的に注視していくことが大事と考えています。



### ◆日本における、子供の貧困とは・・・

「子供の貧困」というワードが最近マスコミを騒がせています。私どもの日常生活の中で、日本に子供の貧困があるの？と、チョット首をかしげてしまいますが、食べることもままならず という絶対的貧困ではなく、「相対的貧困」のこのようです。私は知らなかったのですが、沼津市内に家庭の事情で施設に入っている子供たちがいて、彼らは穴の開いた靴下を履き、タオル一本も手に入れにくいということを聞いたことがあります。このことについてはもう少し見聞きして、どのような貢献ができるのか学んでみたいと思っています。

### ◆今どきの若いモンは、大したモンだ

2017年4月24日付新聞で、「将棋の史上最年少棋士 藤井聡太四段(14)が、非公式戦で羽生善治王座を破る」という記事が目に入りました。公式戦デビュー後13連勝と新記録を更新中で、羽生王座に『すごい人が現れたという印象』と言わしめた若者です。私は将棋を良く知らないのですが、とてつもない若者だということは分かります。最近、このように十代の若者の目覚ましい活躍が目立ちます。卓球の平野美宇(17・沼津出身)、水泳の堀江瑠花子(16)、フィギュアスケートの三原舞依(17)等々とスポーツで女子選手ばかりだが、他の世界でも活躍している人がいるのではないかと思います。このような若者たちを見るにつけ、今どきの若いモンは大したモンだと感心するやら勇気づけられもします。怖気づかない精神力、科学的な育成強化システム、類まれな才能、優秀なコーチング、過酷なトレーニング、飽くなき挑戦心、挫折の繰り返し、良き友、等々、一流になる条件は事業にも結構共通しているようです。相乗効果で、モノづくり、研究、文化などの分野でも素晴らしい人材が出てくることを期待しています。



### ◆5S — たゆまぬ活動を続けよう

このところ、我が社に5S見学で来社される方々に恵まれ、刺激を受けていることはありがたい事です。5S活動が後戻りしないよう歯止めになりますし、更に向上しなければという思いにさせてくれます。また、我社を知っていただく良い機会でもあります。5Sは、仕事の一環であることを再確認し、たゆまぬ活動を続けていきましょう。

**意識を変え！ やり方を変え！ 業績を変えよう！  
ご安全に！**



代表取締役社長 赤堀 肇紀